

部分的観測の場合の最適停止問題

神戸大理 西尾真喜子 (Makiko Nisio)

§1. Introduction. 確率微分方程式に従って時間発展している運動系 $X(t)$ を, 許容される停止時間のクラスから, 停止時間 τ を之らんで, 運動を止めた時, $g(X(\tau))$ の gain が得られるとする. その平均値 $Eg(X(\tau))$ を最大にする様な停止時間を求める問題は, 最適停止問題である. 運動系 $X(t)$ が完全に観測出来る場合, $X(t)$ に適合した停止時間が許容されるか, $X(t)$ の代りに, 雑音を伴った $Y(t) = W(t) + \int_0^t h(X(s)) ds$ (完全に観測出来ない場合, $Y(t)$ に適合した停止時間が許容されないことになる. この場合の問題が, 部分的観測の最適停止問題である. $X(t)$ の $(Y(s), s \leq t)$ に対する filtering を考えることにより, 測度値としての過程が得られ, これを新しく運動系と考えることにより, 完全観測な場合に帰着する方法が取られつつあるが, 部分的な結果が得られてくるにすぎない, [1, 5]. この報告では, 運動系が以下に述べるように, 観

測度一対一を利用して制御されている場合の部分的観測の最適停止問題を考える。

Control region Γ を R^k のコンパクト凸集合とし, $[0, T] \times C([0, T] \rightarrow R^1)$ 上で定義された発展的可測関数 F を *admissible control* とよぶ. i. e

(i) F は $B_1([0, T]) \times B(C([0, T] \rightarrow R^1))$ - 可測.

(ii) 任意の t に対し, $F(t, \cdot)$ は $B(C([0, t] \rightarrow R^1))$ - 可測.

F を用いる場合の運動系 X (n 次元) と観測系 Y (1 次元) は次の *controlled stochastic differential equation* (CSDE) に従うとする.

$$(1-1) \begin{cases} dX(t) = \alpha(X(t), F(t, Y)) dB(t) + \gamma(X(t), F(t, Y)) dt, \\ X(0) = \xi \quad (n \text{次元確率変数}) \end{cases} \quad , 0 < t \leq T$$

$$(1-2) \quad dY(t) = dW(t) + h(X(t)) dt, \quad Y(0) = 0.$$

ここで, B は n 次元ブラウン運動, W は 1 次元ブラウン運動で, ξ, B, W は互に独立.

仮定 α, γ, h は充分なゆえか, また, 必要な微分係数まで有界.

CSDE (1-1) (1-2) の解の存在と一意性は §2 で示される. Y - 適合な停止時間 τ で, $\tau \leq T$ とするものを許容し, $E g(X(\tau))$ を最大にする様な *admissible control* F と停止時間 τ を求めることが問題になるが, これは未解決である. §3

で, filtering を用いて問題を定式化し, value function の特徴付けを §4 で行う.

§2. (1-1) (1-2) の弱解の存在と一意性. 確率空間 $(\Omega, \mathcal{F}, \mathcal{F}_t, P)$ 上に, \mathcal{F}_t -可測な n 次元確率変数 ξ , $E|\xi|^2 < \infty$, \mathcal{F}_t -ブラウン運動 B (n 次元), \tilde{W} (1 次元) が与えられる, B と \tilde{W} は独立とする. C S D E (2-1) (2-2) を与える

$$(2-1) \begin{cases} dX(t) = \alpha(X(t), F(t, Y)) dB(t) + \gamma(X(t), F(t, Y)) dt \\ X(0) = \xi. \end{cases}$$

$$(2-2) \quad dY(t) = d\tilde{W}. \quad Y(0) = 0.$$

この方程式は, $Y = \tilde{W}$ と仮定すると, (2-1) は

$$X(t) = \xi + \int_0^t \alpha(X(s), F(s, \tilde{W})) ds + \int_0^t \gamma(X(s), F(s, \tilde{W})) ds$$

となり, α, γ の仮定から, 逐次近似法により一意解が求まる. しかも, X は ξ と (B, \tilde{W}) に対し発展的可測.

よく知られているように, 次のような Girsanov 変換を行えば:

(1-1) (1-2) の解を求めることが出来る.

$$(2-3) \quad L(t) = \exp\left(\int_0^t h(X(s)) dY(s) - \frac{1}{2} \int_0^t |h(X(s))|^2 ds\right)$$

と置き,

$$(2-4) \quad d\hat{P} = L(t) dP$$

により, 新しい確率 \hat{P} を導入すれば, 確率空間 $(\Omega, \mathcal{F}, \mathcal{F}_t, \hat{P})$ 上で,

$$(2-5) \quad W(t) = Y(t) - \int_0^t h(X(s)) ds$$

は, B と独立な 1 次元ブラウン運動となる. ゆえに, (2-1)

(2-2) の解 X, Y は, $(\Omega, \mathcal{F}, \mathcal{F}_t, \hat{P})$ 上で (B, W) に因する

(1-1) (1-2) の解と与える.

分布の一意性. $(X^*, Y^*) \in (\Omega^*, \mathcal{F}^*, \mathcal{F}_t^*, P^*)$ 上の (ξ^*, B^*, W^*)

に因する (1-1) (1-2) の解とする.

$$L^*(t) = \exp\left(\int_0^t h(X^*(s)) dY^*(s) - \frac{1}{2} \int_0^t |h(X^*(s))|^2 ds\right)$$

とすれば,

$$L^*(t)^{-1} = \exp\left(\int_0^t -h(X^*(s)) dW^*(s) - \frac{1}{2} \int_0^t |h(X^*(s))|^2 ds\right)$$

は, 平均 1 の \mathcal{F}_t -マルティンガールである.

$$d\tilde{P} = L^*(T)^{-1} dP^*$$

により新しい確率 \tilde{P} を導入すれば, $(\Omega^*, \mathcal{F}^*, \mathcal{F}_t^*, \tilde{P})$ 上で,

Y^* は B^* と独立なブラウン運動になり, (2-1) (2-2) の場合

になる. ゆえに,

$(\Omega^*, \mathcal{F}^*, \mathcal{F}_t^*, \tilde{P})$ 上の (ξ^*, X^*, Y^*, B^*) の分布

$$= (\Omega, \mathcal{F}, \mathcal{F}_t, P) \text{ 上の } (\xi, X, Y, B) \text{ の分布}$$

即ち, 任意の有界連続関数 H に対し

$$\begin{aligned} & E^* H(X^*(t_1), \dots, X^*(t_n), Y^*(t_1), \dots, Y^*(t_n)) \\ &= \tilde{E} H(X^*(t_1), \dots, Y^*(t_n)) \exp\left(\int_0^T h(X^*(s)) dY^*(s) - \frac{1}{2} \int_0^T |h(X^*(s))|^2 ds\right). \end{aligned}$$

$$= E H(X(t_1), \dots, Y(t_n)) \exp\left(\int_0^T h(X(s)) dY(s) - \frac{1}{2} \int_0^T |h(X(s))|^2 ds\right)$$

$$= \hat{E} H(X(t_1), \dots, Y(t_n)).$$

ゆえに, P^* に対する (X^*, Y^*) の分布 = \hat{P} に対する (X, Y) の分布.
以上のことを Proposition とに書いておく.

Proposition 1 C S D E (1-1) (1-2) は一意的弱解をもつ.

弱解 (X, Y) の分布は, \mathcal{F} の分布 μ と admissible control F による
定まるが, 必要な場合には, $X(\cdot, \mu, F)$ の形に書く.

§3. Controlled Zakai equation. $X(t)$ の $(Y(s), s \leq t)$
に対する unnormalized conditional probability の Zakai
equation に従うことを示し, 適当な条件 (A1) (A2) の下で
その解として特徴付けられることを述べる.

(X, Y) を $(\Omega, \mathcal{F}, \mathcal{F}_t, \hat{P})$ 上の (1-1) (1-2) の解とする.

既に述べたように, Girsanov 変換を行ふことにより, $(\Omega, \mathcal{F}, \mathcal{F}_t, P)$ 上で, Y は 1 次元ブラウン運動となり, (\mathcal{F}, B, Y) は
互に独立になる. ゆえに, 有界 Borel 関数 f に対する条件附
平均は次式で計算出来る

$$(3-1) \quad E(f(X(t)) L(t) / \sigma_t(Y)) = E^{(\mathcal{F}, B)}(f(X(t)) L(t)), \text{ a.e.}$$

但し, $\sigma_t(Y) = (Y(s), s \leq t)$ の生成する σ -加法族で, $E^{(\mathcal{F}, B)}$
は (\mathcal{F}, B) についての平均.

(3-1) の右辺は, Y の path 毎に, $L_\infty(\mathbb{R}^N)$ 上の正の線型

汎関数として確定する為, 測度値確率過程 $M(t, \cdot)$ の, 次の

(3-2) \exists する様に存在する.

$$(3-2) \quad E(g(x(t)) L(t) / \mathcal{G}_t(Y)) = \int_{R^N} g(x) M(t, dx) \equiv \langle g, M(t) \rangle \quad \text{a.e.}$$

g が h からなる場合, Itô's 公式によつ,

$$(3-3) \quad \begin{cases} d \langle g, M(t) \rangle = \langle G(F(t, Y)) g, M(t) \rangle dt + \langle h g, M(t) \rangle dY \\ \langle g, M(0) \rangle = \langle g, \mu \rangle. \quad (\mu \text{ は } \xi \text{ の分布}) \end{cases}$$

こゝで,

$$(3-4) \quad G(u) = \sum_{i,j=1}^n a_{ij}(x, u) \frac{\partial^2}{\partial x_i \partial x_j} + \sum_{i=1}^n \gamma_i(x, u) \frac{\partial}{\partial x_i}, \quad a = \frac{1}{2} d^2$$

(たゞ, $M(t, dx) = Z(t, x) dx$ と密度 Z が存在するとき,

$$(3-5) \quad \begin{cases} dZ(t, x) = G^*(F(t, Y)) Z(t, x) dt + h(x) Z(t, x) dY(t) \\ Z(0) = \lambda (= \mu') \end{cases}$$

$U(t) = F(t, Y)$ とおき, 有限空間上の CSD E,

$$(3-6) \quad \begin{cases} dZ(t) = G^*(U(t)) Z(t) dt + h Z(t) dY(t) \\ Z(0) = \lambda \end{cases}$$

\exists controlled Zakai equation とよぶ.

(3-6) に関して既に知られたる結果を記しておく. その為, 既に仮定 1 の係数の存在と有界性以外に, 次の (A1) と (A2) を以後仮定する.

(A1) $a_{ij}(x, u)$ は U に依存しない. $i, j = 1, \dots, n$.

(A2) $\exists c > 0$; $\sum_{i,j=1}^n a_{ij}(x, u) \geq c|x|^2, \quad \forall x \in R^n, u \in \Gamma$.

$$\mathcal{U} = \{ U : U(t) = F(t, Y), F: \text{adm. control} \}$$

$$\mathcal{S}(t) = \{ \tau : Y\text{-適合な停止時刻}, \tau \leq t \}$$

$$W = \{ \varphi \in W_2^2(\mathbb{R}^n) : \varphi \geq 0 \}$$

Proposition 2 [2.3]. (3-6) の解を $Z(\cdot, \lambda, U)$ と書く.

初期値 $\lambda \in W$ とする. 前記の仮定の下で, (i) ~ (vi) が成立.

- (i) Y -適合な一意解 $Z(\cdot, \lambda, U)$ の存在する
 (ii) 確率 1 で " $Z(t, x, \lambda, U)$ は (t, x) -連続, 且 $\forall t$ に対し
 $Z(t, \cdot, \lambda, U) \in W$ "

- (iii) 初期値に関する連続性, $\exists K(T) > 0$;

$$\sup_{U \in \mathcal{U}} E \sup_{t \leq T} \| Z(t, \cdot, \lambda, U) - Z(t, \tilde{\lambda}, U) \|^2 \leq K(T) \|\lambda - \tilde{\lambda}\|^2$$

$$\text{但し } \| \cdot \| = \| \cdot \|_{L^2(\mathbb{R}^n)}$$

- (iv) $\exists K_1(T) > 0$;

$$\sup_{U \in \mathcal{U}} E \sup_{t \leq T} \| Z(t, \lambda, U) \|_{H^1}^2 \leq K_1(T) \|\lambda\|_{H^1}^2$$

- (v) 時間に関する連続性; $\exists K_2(T) > 0$; $\tau, \sigma \in \mathcal{S}(T)$.

$$|\tau - \sigma| \leq \theta \Rightarrow \sup_{U \in \mathcal{U}} E \| Z(\tau, \lambda, U) - Z(\sigma, \tilde{\lambda}, U) \|^2 \leq K_2(T) \theta \|\lambda\|_{H^1}^2$$

- (vi) 有界連続関数 f と $\tau \in \mathcal{S}(T)$ に対し

$$E(f(X(\tau, \lambda, F)) | \mathcal{L}(\tau) / \sigma_\tau(Y)) = \int_{\mathbb{R}^n} f(x) Z(\tau, x, \lambda, U) dx.$$

$$\text{但し } U(t) = F(t, Y).$$

i. e. (3-6) の解 Z は, X の Y に関する unnormalized conditional probability の density に対応する.

(vi) と (2-4) を考慮合せると, 初めの pay-off function は次の様に計算出来る

$$(3-7) \quad \hat{E}(g(X(t, \lambda, F))) = E \int g(x) Z(t, x, \lambda, U) dx.$$

この事実を考慮して, 我々の問題を次の様に定式化しよう.
 $(\Omega, \mathcal{F}, \mathcal{F}_t, P)$ を確率空間, Y を 1 次元 \mathcal{F}_t -ブラウン運動,
 Y に適合した 1 次元確率過程を admissible control とよび, その
 全体を \mathcal{A} と記す. $\mathcal{S}(t) = \{ \tau; Y\text{-適合な停止時間}, \tau \leq t \}$
 $U \in \mathcal{A}$ を適用した場合の系 Z の運動は次の controlled Zakai
 eq. に従うとす

$$(3-8) \quad \begin{cases} dZ(t) = \mathbb{Q}^*(U(t)) Z(t) dt + h Z(t) dY(t), & 0 < t \leq T. \\ Z(0) = \varphi \in W. \end{cases}$$

次の (3-9) を満たす Lipschitz 連続な W 上の実数値関数全体の集合を \mathcal{L} とす

$$(3-9) \quad K_{\mathcal{L}} \equiv \sup_{\varphi \neq \psi} \frac{|\Phi(\varphi) - \Phi(\psi)|}{\|\varphi - \psi\|} < \infty.$$

$\Phi \in \mathcal{L}$ を pay-off function とし与えられたとき,

$$(3-10) \quad V(t, \varphi, \Phi) = \sup_{\tau \in \mathcal{S}(t), U \in \mathcal{A}} E \Phi(Z(t, \varphi, U))$$

を value function とす. 従って, V を与える最適制御
 $U \in \mathcal{A}$ と最適停止時間 $\tau \in \mathcal{S}(t)$ を求めること, 及び value
 function V の特徴付けが本問題に等しい.

§4. V の特徴付け. 先ず, value function V が \mathcal{L} 上の

半群を導入することに注意し, この立場より, 1つの特徴関数 Φ と与える [4]. Proposition 2 (V) によつて $V(t, \varphi, \Phi)$ は t の連続増加関数に存する, 次の命題が証明出来る

Proposition 3 $\Phi \in \mathcal{L} \Rightarrow V(t, \cdot, \Phi) \in \mathcal{L}$.

$$\begin{aligned} \textcircled{4} \quad & \left| \sup_{\tau \in \delta(t), U \in \mathcal{Q}} E \Phi(Z(\tau, \varphi, U)) - \sup_{\tau \in \delta(t), U \in \mathcal{Q}} E \Phi(Z(\tau, \psi, U)) \right|^2 \\ & \leq \sup_{\tau, U} E |\Phi(Z(\tau, \varphi, U)) - \Phi(Z(\tau, \psi, U))|^2 \\ & \leq \sup_{\tau, U} K_{\Phi}^2 E \|Z(\tau, \varphi, U) - Z(\tau, \psi, U)\|^2 \\ & \leq K_{\Phi}^2 K(t) \|\varphi - \psi\|^2 \end{aligned}$$

i.e. $V(t, \cdot, \Phi)$ は Lipschitz 条件 (3-9) を満たす。

ゆえに, operator $V(t) : \mathcal{L} \rightarrow \mathcal{L}$ を (3-11) によつて

定義出来る

$$(3-11) \quad V(t) \Phi = V(t, \cdot, \Phi).$$

Proposition 4 $V(0) = \text{identity}$. $V(t+s) = V(t) V(s)$.

i.e. $V(t)$ は \mathcal{L} 上の半群性をもち, この事は次の有名な Bellman Principle を意味する。

$$(3-12) \quad V(t+s, \varphi, \Phi) = V(t, \varphi, V(s, \cdot, \Phi))$$

Outline of proof 次のよりの time discrete approximation

による。

$$J_N \Phi(\varphi) = \Phi(\varphi) \vee \sup_{U \in \mathcal{Q}} E \Phi(Z(2^{-N}, \varphi, U))$$

但し $a \vee b = \max(a, b)$, とおけば, J_N も \mathcal{L} 上の

作用素となり, J_N^k , $k=1, 2, \dots$ が順次定義出来る。一方, 停止時間も離散化し, $\{j2^{-N}, j=0, 1, 2, \dots\}$ の値をとる $\mathcal{S}(t)$ の要素の全体を $\mathcal{S}(t, N)$ とする。 $\sigma_0(Y)$ は trivial な \mathcal{F}_2 , $\tau \in \mathcal{S}(2^{-N}, N)$ に対し $(\tau=0) \in \sigma_0(Y)$ より $P(\tau=0) = 1 \sim 0$.
 同様に, $P(\tau=2^{-N}) = 1 - P(\tau=0) = 0 \sim 1$. 即ち,

$$E \Phi(Z(\tau, \varphi, U)) = \Phi(\varphi) \sim E \Phi(Z(2^{-N}, \varphi, U))$$

$$\therefore J_N \Phi(\varphi) = \sup_{U \in \mathcal{Q}, \tau \in \mathcal{S}(2^{-N}, N)} E \Phi(Z(\tau, \varphi, U)) \text{ が成立つ.}$$

より一般に次の (3-13) が証明出来る。

$$(3-13) \quad J_N^k \Phi(\varphi) = \sup_{U \in \mathcal{Q}, \tau \in \mathcal{S}(k2^{-N}, N)} E \Phi(Z(\tau, \varphi, U)),$$

$$V_N(t) \Phi(\varphi) = J_N^k \Phi(\varphi) \quad \text{for } t = k2^{-N} \text{ とおけば, } V_N(t)$$

は \mathcal{L} 上の離散時間の半群となり, $V_N(t) \Phi(\varphi) \leq V_{N+1}(t) \Phi(\varphi)$ と

N につき増大する。(2.0, 2, (3-13) より)

$$(3-14) \quad V(t) \Phi(\varphi) = \lim_{N \rightarrow \infty} V_N(t) \Phi(\varphi) \quad \text{for } t = \text{binary.}$$

一方 $V_N(t)$ は半群性をもつから, binary t, s に対し,

$$(3-15) \quad V(t+s) \Phi(\varphi) = \lim_{N \rightarrow \infty} V_N(t+s) \Phi(\varphi)$$

$$= \lim_{N \rightarrow \infty} V_N(t) (V_N(s) \Phi)(\varphi) = V(t) (V(s) \Phi)(\varphi).$$

$V(t) \Phi(\varphi)$ の t に関する連続性より, (3-15) は任意の t, s に対し成立つ。

以上のことを定理としてまとめよう。

Theorem 1. $V(t) : \mathcal{L} \rightarrow \mathcal{L}$, $t \in [0, T]$ は次の性質をもつ。

$$(i) \quad V(0) = \text{identity.} \quad V(t+s) = V(t) V(s). \quad (\text{半群性}).$$

(ii) $V(t)\Phi(\varphi)$ は t の連続増大関数

(iii) $V(t)\Phi(\varphi) \leq V(t)\Psi(\varphi) \quad \forall \varphi \in W, \quad \forall \Phi(\varphi) \leq \Psi(\varphi) \quad \forall \varphi \in W.$

$u \in \Gamma$ に対し, $S(t, u) \in S(t, u)\Phi(\varphi) = E\Phi(Z(t, \varphi, u))$ と

おいて, $S(t, u), t \in [0, T]$ は L 上の半群に与る. 以下を用い

て, 次の特徴付けが出来る.

Theorem 2 L 上の order \leq " $\Phi \leq \Psi \Leftrightarrow \forall \varphi \in W, \Phi(\varphi) \leq \Psi(\varphi)$ " とする.

(i) $\Phi \leq V(t)\Phi \quad \forall t, \Phi.$

(ii) $S(t, u)\Phi \leq V(t)\Phi \quad \forall t, \Phi, u.$

(iii) $Q(t)$ が (i) (ii) を満たす L 上の半群ならば, $V(t)\Phi \leq Q(t)\Phi.$

i.e. $V(t)$ は identity と $S(t, u) \quad u \in \Gamma$ を dominate する最小の

半群として特徴付けられる.

証明は, $\gamma(x, u)$ の u に関する平均を取ると, $Z(t, \varphi, U)$ が U に連続的に依存する. (したがって, step control で近似出来る) ことに注意して, $V_N(t)\Phi(\varphi) \leq Q(t)\Phi(\varphi), t = k2^{-N}, k=1, \dots, N$ とし, $N \rightarrow \infty$ とし, (iii) が成立する.

References.

- [1]. V. E. Beneš, Lect. Notes in Control & Inf. Sci. 42 (1982), 38-53.
- [2]. A. Bensoussan, Stochastics, 9 (1983) 162-222.
- [3]. Y. Fujita, Tohoku Math. J. (to appear)
- [4]. Y. Fujita, & M. Nisio, Preprint
- [5]. G. Mazziotto, Preprint.